

長崎県海岸清掃マニュアル



平成 27 年 2 月



長崎県

本マニュアルは、国の地域環境保全対策費補助金（海岸漂着物地域対策推進事業：平成 25～26 年度）により長崎県が造成した「長崎県海岸漂着物地域対策推進事業補助金」に基づき、長崎県が作成したものです。

表紙の写真について

西海国立公園内の
九十九島

【はじめに】

長崎県は594の島*を有しているほか、北海道に次ぐ全国第2位の海岸線総延長（約4,200km）を有しています。また、多くの入江や岬などからなる海岸は、美しい自然景観を形成し、県民生活と生産活動を支える自然の恵みをもたらすと共に、多種多様な生物が生息・生育する貴重な場となっています。

一方、黒潮から派生する対馬暖流による海流の影響を受けやすい地形的な特性や冬季の季節風あるいは台風などによって、県内の海岸には中国、韓国などの近隣諸国や日本国内から発生したごみが毎年多く漂着しています。これら海岸に漂着するごみは、景観、自然環境、水産資源、観光などへの影響が懸念されており、深刻な問題となっています。

このような状況を受け、長崎県は平成22年10月に地域の特性を踏まえた海岸漂着物の回収および処理方法、発生抑制対策、並びに関係者の役割分担と相互協力を確立するための「長崎県海岸漂着物対策推進計画」（地域計画）を策定しました。長崎県は、これを基に海岸漂着物対策を推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全など、総合的な海岸の環境の保全を図っています。

しかし、海岸に漂着するごみは、取り除いても繰り返し流れ着くことから、海岸管理者や地元行政の取り組みだけではその対応が追いつかないこともあります。そのため、海岸漂着物対策を推進するに当たっては、地元市町などの対策に加え、ボランティアによる地域住民などの協力が不可欠であるといえます。

これらのことから、地域住民やボランティア団体などが安全かつ適切に海岸清掃活動を実施できるよう支援するため、また、海岸管理者や地元市町が海岸漂着物対策を適切に実施できるようにするため、「長崎県海岸清掃マニュアル」をとりまとめました。

本マニュアルは、【県民活動編】および【行政担当者編】から構成されています。

【県民活動編】は、長崎県民あるいは長崎県在住者が、ボランティアによる海岸清掃活動に参加しようとした場合には、どのようにしたら良いかについてとりまとめたものです。

【行政担当者編】は、県内市町の行政担当者が、海岸漂着物の回収事業を計画・実施する場合には、どのようにしたら良いかについてとりまとめたものです。

マニュアルの構成

区 分	使用対象者	記載内容
【県民活動編】	海岸清掃活動に参加したい人や団体	海岸清掃活動に参加するには、どのようにしたら良いかを解説
【行政担当者編】	海岸清掃事業を計画・実施しようとする県内市町の行政担当者	海岸漂着物の回収・処理事業を計画・実施するには、どのようにしたら良いかを解説

*:長崎県 (<http://www.pref.nagasaki.jp/sima/qa/nagasaki-qa.html>) は、陸地面積1,000m²以上の島を「島」ととらえており、その数を594島（有人島が72島、無人島が522島）としています。

長崎県海岸清掃マニュアル 目次

はじめに

1	「漂着ごみ」って何？	1
1.1	漂着ごみの問題点	1
1.2	漂着ごみ対策	2
1.3	漂着ごみに関する情報	3
2	長崎県の海岸の特徴と漂着ごみの概要	4
2.1	長崎県の海岸の特徴	4
2.2	長崎県の漂着ごみの概要	5
3	【県民活動編】海岸清掃活動に参加するには	6
3.1	参加の検討	7
3.1.1	海岸清掃活動団体などの把握	7
3.1.2	海岸清掃活動の内容の把握	9
3.1.3	参加申込み	11
3.2	参加準備	12
3.2.1	服装と持ち物	12
3.2.2	移動手段の検討	14
3.3	海岸清掃活動への参加	14
3.3.1	漂着ごみの分別	14
3.3.2	作業上の留意点	15
3.3.3	楽しく安全に漂着ごみを拾うには	17
3.4	海岸清掃結果を見る	21
3.5	参考資料	22
4	【行政担当者編】海岸清掃事業を計画・実施するには	25
4.1	基本的な考え方	28
4.1.1	海岸漂着物の回収・処理に関わる国の法律	28
4.1.2	海岸漂着物対策に関わる長崎県の地域計画	28
4.2	計画・準備	30
4.2.1	対象海岸の選定	30
4.2.2	海岸環境および漂着ごみの特性把握	32
4.2.3	回収・搬出方法の検討	43
4.2.4	関係機関との調整・連携	53
4.2.5	回収・搬出事業の委託先の検討	55
4.2.6	処理方法の検討	56
4.2.7	回収事業、処分手業の経費算定	59
4.2.8	回収・搬出事業、処理事業の委託方法の検討	76
4.2.9	海岸清掃事業の実施時期の検討	78
4.2.10	関係機関への連絡	78
4.2.11	安全対策	78
4.3	海岸清掃事業の実施	80
4.3.1	回収・搬出事業の実施	80
4.3.2	処理事業の実施	82
4.4	事後作業	84
4.4.1	海岸清掃事業の実施結果の整理	84
4.4.2	海岸清掃事業結果の報告	84
4.5	参考事例	87
4.5.1	回収・搬出を人力と重機および船で行った事例	87
4.5.2	回収・搬出を人力と重機で行った事例	97
4.5.3	回収・搬出作業を人力と車両で実施した事例	109

「漂着ごみ」って何？

～海岸漂着ごみ問題と
長崎県内の海岸の状況～



1 「漂着ごみ」って何？

漂着ごみについて調べてみよう。

【用語の定義】＜海岸漂着物、漂着ごみ＞

「海岸漂着物処理推進法」（「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観および環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」（平成21年7月。平成21年法律第82号））において、「海岸漂着物」は“海岸に漂着したごみその他の汚物又は不要物をいう”、また、「海岸漂着物等」は“海岸漂着物及び海岸に散乱しているごみその他の汚物又は不要物をいう”と定義されています。一般的には、これら海岸漂着物および海岸漂着物等を総称して、「漂着ごみ」あるいは「海岸漂着ごみ」などと表現されています。

漂着ごみについては以下のような影響が懸念されており、生物多様性への影響に加え、やがては長崎県民ばかりではなく、世界の人々の健康や生活に跳ね返ってくる可能性が考えられています。そのために、漂着ごみの発生源対策が重要であるほか、海岸に流れ着いたごみについては可能な限り早めに回収することが重要となります。

1.1 漂着ごみの問題点

● 直接的な影響

・誤飲、誤食による生物への影響

海に流れ出たレジ袋・ペットボトルのキャップなどの漂流ごみを、ウミガメ・イルカや海鳥などが餌と間違えて食べてしまうと、胃などの消化器にたまり続け、やがては餌を取れずに死んでしまう場合があります。

・絡まりによる生物影響

漁網やロープなどは化学繊維素材でできており、アシカやウミガメなどがこれに絡まるとはずれにくく、体に食い込んだり、動けなくなって、やがては死に至る場合もあります。

【生物による誤飲・誤食の被害例】



水面のごみをついばむ水鳥



死んだウミガメの胃から見つかった破片ごみ



死んだコアホウドリのヒナ3羽の胃から見つかったごみ

【漁網やロープによる絡まりの被害例】



漁網が首にからまったキタオットセイの子ども



漁網にからまった状態で死亡していたウミガメ



釣り糸にからまった状態で死亡していたペリカン

(写真提供：一般社団法人 JEAN)

・海岸植物への影響

海岸に堆積したごみによって、海辺の植物が覆われてしまい、生育が困難となる場合があります。この中には、絶滅に瀕している希少な植物が含まれていることもあります。

・漁業被害

漁船のスクリーンに網や流木がぶつかって壊れて動けなくなるほか、定置網などに絡まって操業に支障をきたすこともあります。

・景観の悪化、観光被害

観光地に隣接する海岸では漂着ごみの堆積により景観が悪くなり、訪れた観光客が再度の訪問を取り止めたり、口コミでの風評によって観光にも影響を与える可能性が考えられます。

● 間接的な影響：海洋環境、人間への影響

海岸や海中にあるプラスチック類は紫外線によって劣化するほか、波浪の影響も受けて微細化してしまいます。微細化したプラスチックは、元々、有害物質が含まれている上、石油からできているために、PCB（ポリ塩化ビフェニル）などの有害物質を吸着しやすく、その濃度は周りの海水の10万～100万倍になることもあると言われています。それを餌と間違えて食べた海鳥や魚・貝類に有害物質が蓄積され、やがては魚や貝類を食べる人間の健康に影響を与える可能性が指摘されています。

1.2 漂着ごみ対策

本来は、漂着ごみを発生させない対策（「発生抑制対策」といいます）が非常に重要で、身近なところではごみをポイ捨てしない、などのことから始める必要がありますが、その効果が出るには時間がかかり、その間にもごみは漂着し続けます。特にプラスチック系の漂着ごみについては、上記のように破損して微細化した場合は海洋生物や海鳥などの生息・成長への危険性が増すなどの生物影響のほか、微細化したプラスチック類を餌とした魚介類を人間が食べた場合はその健康や生活にも被害を与える可能性があるなど、被害が大きくなることが考えられます。そのため、海岸に漂着してしまったごみについては、可能な限り早く回収・処理することが望まれます。

この海岸漂着ごみの回収・処理については、法律で海岸管理者が海岸をきれいにすることが定められていますが、繰り返し押し寄せる漂着ごみについて行政だけで対応するのは困難です。

そのため、「海岸漂着物処理推進法」には、行政と民間との連携と協働の必要性や、市民は海岸清掃活動に協力することが謳われています。

● 私たちにできることは？

・海や海岸、漂着ごみに関心を持つ

最近、海や海岸に行ったことがありますか？海岸がどんな状況になっているか、知っていますか？

私たちにできることは、まず、海や漂着ごみに関心を持つことが第一歩です。

・ポイ捨てしない、生活から出るごみを少なくする

海岸ばかりではなく、街中や道路・山の中で不法投棄やポイ捨てされたごみは、街・山から川へ、川から海へ流れ着き、海岸漂着ごみになる可能性があります。プラスチック類の漂着ごみは、やがては微小プラスチックになり、回収はほぼ不可能となります。

そのため、まずはポイ捨てしないこと、ごみ出しルールを守って家庭ごみを適切に処理すること、またこれらのことを家族や友人、周囲の人にも伝えて一緒に考え、行動することが必要です。

・海岸や街中、道路脇のごみ拾いに参加する

海岸ばかりではなく、身近な街や道路脇のごみを拾うことが漂着ごみを少なくすることにもつながります。本マニュアルで紹介する海岸清掃活動のほか、町内の清掃活動などにも積極的に参加しましょう。

1.3 漂着ごみに関する情報

海岸清掃活動に参加する前に、漂着ごみ問題について調べ、考えてみましょう。

どんなごみがあり、どんな問題があるのか、自分達でできることは何か、などをインターネットで調べ、実際に海岸で確認すると、興味がわきます。また、普段の生活でのごみ処理・ポイ捨て防止にもつながります。例えば、以下のようなサイトがあります。

【インターネットで漂着ごみのことが調べられるサイトの例】

- ・一般社団法人 JEAN (<http://www.jean.jp/>)
- ・漂着物学会 (<http://drift-japan.net/>)
- ・公益財団法人 環日本海環境協力センター (<http://www.npec.or.jp/>)
同サイトの中の「海ごみポータルサイト」 (<http://www.npec.or.jp/umigomiportal/>)

上記のほか、参考例として、漂着ごみによる影響、漂着ごみに関する知見、漂着ごみを減らすための行動などについて解説したパンフレットをご紹介します(図 1-1。環境省作成)。インターネットを利用して、閲覧してみてください。

どうして海岸にごみがたまるのでしょうか

ポイ捨てされたごみや屋外に放置されたごみは、雨や風によって河川に入り、海に流れ出します。このほか漁業のごみや船舶からのごみなど海上で発生するごみもあります。こうしたごみは海の流れや風の力によって海岸にたどり着きます。

これに対して、日本各地の海岸や河川で自治体やボランティア等による清掃活動がおこなわれています。しかしながら以下の理由により、回収が追いついていないのが現状です。

- 特定の海岸に、毎年繰り返し大量に漂着
- 人が近づけない海岸にも多数のごみが漂着
- 医療系ごみや大きなごみなど回収しにくいごみも多い
- 再度海に流れ出し、広域に拡散して回収できなくなる

私たちにできること

ごみを減らすこと、発生したごみはきちんと処分することが、美しい海岸を守ることにつながります。

- ① 屋外で出たごみは家に持ち帰って処分しましょう
- ② ごみは所定の場所・時間に、分別して出しましょう
- ③ 海・川・山のレジャーではごみを持ち帰りましょう
- ④ ごみのポイ捨ては法令で禁止されています
- ⑤ 日々の生活から出るごみを減らしましょう
- ⑥ 使い捨てをなくし、繰り返し使えるものを選びましょう
- ⑦ 包装はできるだけ少ないものを選びましょう
- ⑧ 清掃活動に参加しましょう
- ⑨ 河川敷や海岸の清掃活動に参加しましょう

もっと知りたい人のために

- 環境省漂着・漂着ごみ対策 HP http://www.env.go.jp/water/marine_litter/
- 海ごみプラットフォーム・JAPAN HP <http://www.malipjapan.jp/>
(海洋ごみに関する幅広い情報が掲載されています。)
- 『海ごみ一拡大する地球環境汚染』 小島 あずさ・奥 淳平、中公新書
- 海とごみ 日本に漂着するポリ容器 兼廣春之 社団法人海と諸環境美化推進機構
- Marine Litter: A Global Challenge (2009) 国連環境計画 (UNEP) <http://www.unep.org/>

環境省 水・大気環境局 水環境課 海洋環境室
TEL : 03-5521-9025 FAX : 03-3593-1438 <http://www.env.go.jp/>
平成 24 年 3 月発行

漂着ごみについて考える
私たちの海岸を守るには？

海は生命のゆりかごであると同時に、漁業、海運、レジャーなど、私たちの生活に欠かせない場となっています。いま、海岸に流れ着いたごみにより、私たちの海やそこに暮らす生き物たちに様々な影響が及んでいます。かけがえのない海を守るために、私たちは何をすればよいのでしょうか？

環境省のホームページより転載「漂着ごみについて考える。私たちの海岸を守るには？」の1ページ目。

http://www.env.go.jp/earth/marine_litter/index.html

(2ページ目は、http://www.env.go.jp/water/marine_litter/pamph1/pamph_a3-2.pdf)

図 1-1 漂着ごみ問題を扱っている資料の例

2 長崎県の海岸の特徴と漂着ごみの概要

2.1 長崎県の海岸の特徴

本県の海岸は、北松浦半島・東松浦半島、島原半島、西彼杵半島のほか、五島、壱岐、対馬を始めとする島々からなり、変化に富んだ長く複雑な形状の海岸が多くを占めています。それらの海岸は美しい景観を形成していることなどから、西海国立公園、壱岐対馬国立公園、玄海国立公園、野母半島県立公園、北松県立公園などの国立・国定・県立公園に指定されるなど、その豊かで風光明媚な情景は本県の重要な観光資源となっています（図 2-1）。

また、これらの海岸は、ペーロン大会・トライアスロンなどのイベント、ダイビング・ジェットスキーなどのマリンスポーツ、ブルーツーリズムなどの体験活動・学習活動などに幅広く利用され、人々の集い・憩いの場となっています。また、各所に見られる入江には、多くの離島航路の港や漁港が整備され、県民の生活にとって重要不可欠なものとなっています。

しかし、黒潮から分派する対馬暖流に洗われるほか、季節風などの影響によって、県内の海岸には漂着ごみが繰り返し押し寄せています（図 2-2）。

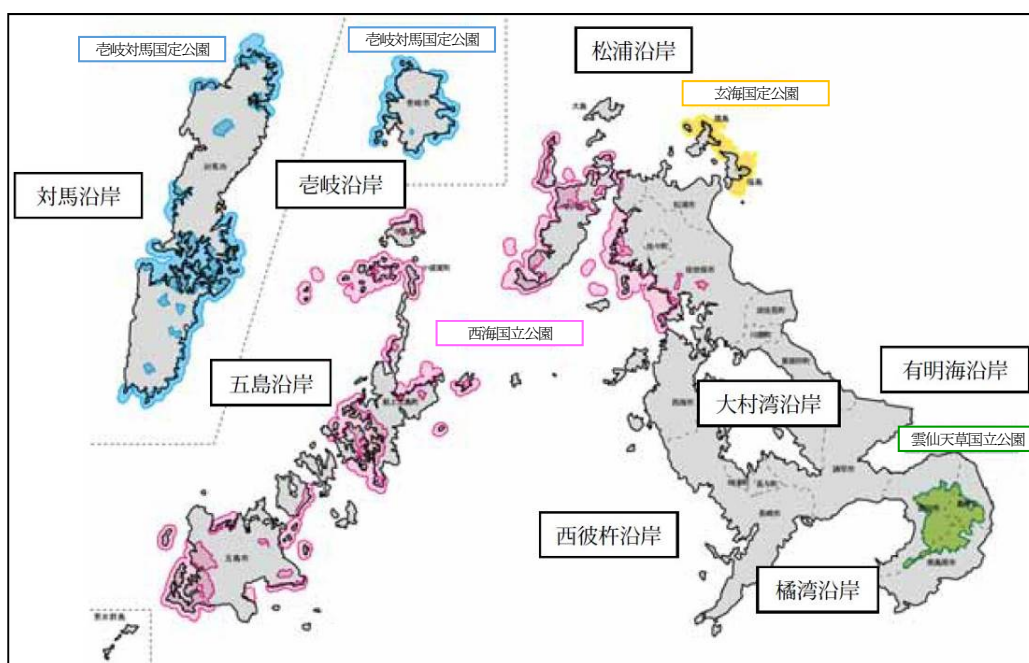


図 2-1 長崎県の沿岸の状況（長崎県海岸漂着物対策推進計画）

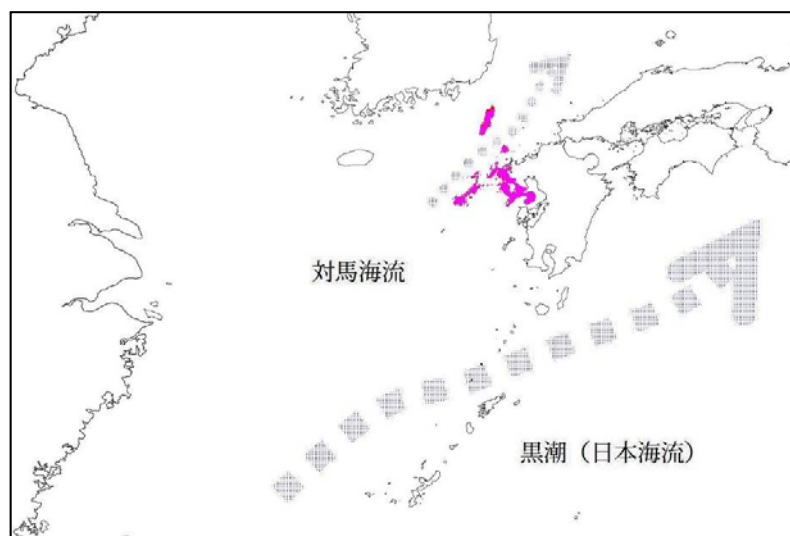


図 2-2 長崎県の位置・海流の状況（長崎県海岸漂着物対策推進計画）

2.2 長崎県の漂着ごみの概要

「長崎県海岸漂着物対策推進計画」によれば、県内の漂着ごみの量は約 80,000 m³ (約 9,000 t) と推計されています。これらの漂着ごみの約 4 割は灌木や流木などの自然物で、残りの約 6 割がプラスチック類・発泡スチロール・木材などの人工物となっています。

これらのごみのうち、生産国が判りやすいペットボトルとライターを調べた結果、それぞれ中国製が 4~5 割、韓国製が 2~3 割を占めていました。一方、どちらの製品にも、日本製が 2 割弱含まれています（環境省平成 19・20 年度調査*結果より）。

このことは、国外ばかりではなく、国内あるいは県内から発生しているごみが県内の海岸に漂着していることを示しています。これらのごみは、単に海に捨てられただけではなく、保管やごみの出し方が適切ではなく、ごみ集積場所から流出したものや、市街地や道路・河川などでポイ捨てされたごみが風雨などによって海に流れ着いたもの、あるいは、海岸でレジャーの際に放置されたごみに起因するものが含まれていると考えられます。そのため、自分たちの海・海岸を自分たちで守るには、ごみを持ち帰る、適切に保管する、などの対応が必要です。

*：「平成 19・20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査」



図 2-3 主な漂着ごみの例

長崎県海岸清掃マニュアル

【県民活動編】

～海岸清掃活動への参加方法の解説～



3 【県民活動編】海岸清掃活動に参加するには

【県民活動編】は、海岸清掃活動への参加を検討している方を対象として、どのように参加すれば良いのか、などについて解説します。

以下に、「長崎県海岸清掃マニュアル」のうち、「県民活動編」の目次を示しました。本編ではこの目次の順に、海岸清掃活動への参加手順が判るように解説しています。

【「長崎県海岸清掃マニュアル」のうち、「県民活動編」の構成】

【県民活動編】海岸清掃活動に参加するには

3.1 参加の検討

- 3.1.1 海岸清掃活動団体などの把握
- 3.1.2 海岸清掃活動の把握
- 3.1.3 参加申込

3.2 参加準備

- 3.2.1 服装と持ち物
- 3.2.2 移動手段の検討

3.3 海岸清掃活動への参加

- 3.3.1 漂着ごみの分別
- 3.3.2 作業上の留意点
- 3.3.3 楽しく安全に漂着ごみを拾うには

3.4 海岸清掃結果を見る

3.5 参考資料

3.1 参加の検討

まずは身近な場所でどのような海岸清掃活動が行われているか調べてみましょう。
次に、どんな活動に参加するかを考えて、参加申し込みをしましょう。

3.1.1 海岸清掃活動団体などの把握

地元で海岸清掃活動を実施している団体などを探しましょう。

長崎県内には海岸清掃活動を活発に実施しているボランティア団体やNPOなどの民間団体が多数あります。また、国や県、市町などの行政機関も、地域住民に参加・協力してもらう形で、様々な海岸保全事業を進めています。それらの活動情報を地域の新聞記事や、テレビ、ラジオなどのメディア、行政機関の広報などから情報収集すると良いでしょう。また、インターネット上で関連情報が公開されている場合もあるので、「海岸清掃活動」や「ビーチクリーン」などをキーワードとして検索し、海岸清掃活動に関係するホームページ（以下「HP」という）やブログ、ツイッターなどを調べても良いでしょう。

まずは、上記の情報源などを利用して、身近な場所で、どのような活動が行われているか調べてみましょう。

海岸清掃活動に関わる情報提供を行う行政および海岸清掃活動への参加募集をしている主な民間団体などのHPの一例を表3-1に整理しました。これら以外にも情報があると考えられますので、調べてみてください。

なお、「県民活動編」の「3.5 参考資料」に、海岸清掃活動に関わる行政や民間団体などの一覧を掲載していますので、参考にしてください。



図 3-1 海岸での漂着ごみの状況



図 3-2 海岸清掃活動の様子

表 3-1 海岸清掃活動への参加募集を行っている事例

地域	市町名	対象海岸ほか	団体名	団体情報・連絡先	活動頻度ほか
長崎・西彼地区	長崎市	脇岬海岸、野母海岸	NPO法人 ノモチ	http://www.facebook.com/tomoko.motomura	週に1回
		長崎港周辺 (松ヶ枝、常盤、出島、元船)	海辺ばきれいにしよう会	http://www.geocities.jp/umikire2002/	週に1回
		長崎市内外海地域	NPO法人 夕陽が丘そとめ	nobu-taira@fmz.seikyuu.ne.jp	2年に1回
		黒崎海岸、大野海浜公園	NPO法人 長崎ビーチサービス	https://nponagasakibs.wordpress.com/	週に1回
		鯨浜	海守/ LET'S55	http://www.umimori.jp/	年に1回
		主に長崎市内の海岸を対象に活動(県内他地域でも実施)	ながさき海援隊	https://www.facebook.com/pages/%E3%81%AA%E3%81%8C%E3%81%95%E3%81%8D%E6%B5%B7%E6%8F%B4%E9%9A%8A/670966696296491	不定期(年に複数回を実施)
	西彼杵郡時津町	大村湾南部 沿岸一帯	NPO法人コミュニティ時津	http://togitu.blog65.fc2.com/	毎年
西海市	大瀬戸町雪の浦 (長崎市の海岸などでも実施)	NPO法人 長崎ビーチサービス	https://nponagasakibs.wordpress.com/	4月～9月 基本第2日曜	
県央・島原地区	大村市	大村公園南堀前～ 玖島崎海岸、寿古海岸	「大村湾をきれいにする会」大村支部	http://www.city.omura.nagasaki.jp/kankyouseisaku/kurashi/kankvo/shisaku/omurawan.html	年に2回
	諫早市	諫早市貝津町、津水町、大村市溝陸町の区域	諫早清掃愛護クラブ	http://isahavacleanupclub1388.jp/	ほぼ毎月一回
県北地域	佐世保市	鹿子前地区(九十九パールリゾート周辺)、俵ヶ浦地区(俵ヶ浦漁協、白浜海水浴場)、浅子地区(二本松海岸)など	佐世保市港湾部みなと復興管理課内 海の日協賛会	http://www.city.sasebo.lg.jp/kouwan/koukanri/event/h260721.html	年に1回
	小値賀町	船瀬・柿の浜・赤浜・白浜 海水浴場を交代で実施	りっぱカンパニーズ	http://rippaka.exblog.jp/	月に1回
五島地域	五島市	白良ヶ浜海水浴場(三井楽地区)、富江地区田尾海岸 など	社団法人 福江青年会議所 海岸おそうじ大作戦(協働運動推進事業)	http://www.fukue-jc.com/	年に数回
老岐地域	老岐市	里浜海水浴場など	老岐島活性化集団「チーム防人」	http://teamsakimori.web.fc2.com/	年に数回
対馬地域	対馬市	上県町佐護地区 井口浜海水浴場 など	対馬市、長崎県 (日韓市民ビーチクリーン)	http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/live/post_9.html	年に1回
		上対馬町佐護の湊浜など	美しい対馬の海ネットワーク (日韓海岸清掃フェスタ in 対馬)	https://www.facebook.com/ikbcuf	年に1回
		大梶海岸 (対馬市美津島町根尾)	NPO法人 対馬の底力	http://www4.ocn.ne.jp/~sokoi/sub6.html	年に1回
		美津島町や厳原町の海岸	NPO法人 森里海再生協議会	http://vankomo.com/modules/pico4/index.php?content_id=3	不定期
		勝見ノ浦海水浴場 など (対馬市美津島町鶏知)	NPO法人 対馬次世代協議会 (対馬コノソレ)	https://www.facebook.com/TsushimaConosole	年に数回
県内全般		漂流漂着ごみ清掃などを主催： 立体環境紙芝居「ごみ君の涙」 などの環境教育を実施；県内学生からなる「海ごみknights」 活動も実施	NPO法人 環境カウンセリング 協会長崎	http://npo-ecan.org/	
		長崎県内外の海辺における漂流・漂着ごみ問題に取り組むネットワーク	ながさき漂着ごみネット	http://ameblo.jp/nagasaki-umigomi/	
		・廃棄物の適正処理に関するお知らせや、海岸漂着ごみ情報などを随時発信(ツイッター) ・漂流・漂着ごみ対策	長崎県環境部廃棄物対策課	https://twitter.com/ngs_haitaika http://www.pref.nagasaki.jp/section/haitai/index.html	長崎県海岸漂着物対策推進計画も掲載

3.1.2 海岸清掃活動の内容の把握

日時・場所・内容を確認しましょう。

参加できそうな海岸清掃活動を見つけたら、募集案内を見て、開催日時や場所、活動内容、持ち物などを確認し、準備しましょう（例：図 3-3）。

● 確認すること

- ・開催日時
- ・集合場所、活動場所と地図
- ・活動内容、申込方法、現地までの移動方法
- ・持ち物（服装など）ほか、注意事項

2013日韓市民ビーチクリーンアップの開催について

2013

日韓市民ビーチクリーンアップ

～ 日韓海峡沿岸県市海岸一斉清掃 ～

今年も、下記の日程で「日韓市民ビーチクリーンアップ」を実施致しますので、ボランティアの参加を募集します。

日 時 平成25年 5月26日（日）★ 雨天中止 ★
午前10時～午後3時（予定） 9時30分受付開始
清掃場所および集合場所 対馬市上県町佐護地区 湊浜海岸周辺（別紙地図参照）
集合場所：上県町佐護 湊浜海水浴場駐車場

主 催 対馬市・釜山外国語大学校
共 催 長崎県
協賛団体 NIB 長崎国際テレビ（24時間チャリティ委員会）

☆ 軍手・昼食（お茶・弁当）はこちらで準備します。
☆ 足場が悪い海岸ですので、作業しやすい服装、靴で参加ください。
※ 参加を希望される方は、別紙申込書を記入のうえお申し込みください。
締切は平成25年5月22日（水）です。

申込書（33KB）
問い合わせ・申し込み先 〒817-0022 長崎県対馬市厳原町国分1441
対馬市役所 環境政策課
電話 0920-53-6111 FAX 0920-52-9114
E-mail: haikibutu@city-tsushima.jp

注：対馬市のホームページより転記（一部修正・加筆）

http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/web/tsushimanews/post_542.html

図 3-3 海岸清掃活動の参加者募集案内の例

● 海岸清掃活動の概要

海岸清掃範囲や参加人数の多寡などの開催規模によりますが、海岸清掃活動はおおよそ次のような内容・流れで実施されます。

特に、少人数での開催など、海岸清掃活動の実施規模が小さい場合は、下記のような明確な案内がなく清掃活動が進行することもあるほか、大人数の海岸清掃活動では活動後にイベントがある場合もあります。いずれの場合でも、事前に海岸漂着ごみに関する知識を得た上で海岸清掃活動に参加すると、楽しく、安全に作業することができます。

【海岸清掃活動の概要】 一般的な海岸清掃活動の内容・流れ

- ・受付
- ・開会式
- ・作業内容の説明
- ・回収作業の開始
- ・休憩
- ・回収作業の継続、搬出作業の開始
- ・回収、搬出作業の終了
- (・イベントの実施 (例：勉強会、音楽ライブなど))
- ・閉会式
- ・回収作業の結果報告

3.1.3 参加申込み

参加申込みをしましょう。

事前の参加申込みが必要な場合には、必ず申込み手続きを行いましょ。

参加申込み時に主催者に伝える項目の例を表 3-2 に示します。その際に、主催者の連絡先や、参加に当たって確認しておきたいことがあれば聞いておきましょう。

なお、事前の参加申込みが不要な当日現地集合、自由参加形式の海岸清掃活動もありますので、情報を集めましょ。

参考までに、参加申込み用紙の例を図 3-4 に示しました。

表 3-2 海岸清掃活動の参加申し込み時に伝える項目の例

項 目	備 考
参加者情報 名前、性別、生年月日、住所、 電話番号、緊急連絡先 (携帯番号・携帯メールアドレスなど)	<ul style="list-style-type: none"> 参加者全員分の情報を伝える（主催者によって求められる情報は異なる） 緊急連絡先は、主催者が当日に中止・順延などの緊急連絡をするために必要な場合がある
参加者が確認したいこと（例として）	<ul style="list-style-type: none"> 移動方法：自家用車利用の可能性（駐車場の有無）、送迎バスなどの利用可能性 主催者の連絡先（参加者が緊急連絡をするため）

対馬市環境政策課 行き FAX 0920-52-9114 E-mail haikibutu@city-tsushima.jp	申込みは平成25年5月22日（水）までをお願いします。							
2013 日韓市民ビーチクリーンアップ参加申し込み用紙								
番号	氏名	所属団体	参加する日	住所	電話	FAX	E-mail	備考
1			5月26日					
2			5月26日					
3			5月26日					
4			5月26日					
5			5月26日					
6			5月26日					
7			5月26日					
8			5月26日					
9			5月26日					
10			5月26日					
<small> ※ 記入欄が不足する場合は、コピーしてください。 ※ 団体で申し込まれる場合は責任者をお決めになり、備考欄に「責任者」と明記してください。なお、悪天候による事業の中止等が考えられますので、代表者の方については電話の欄はできるだけ携帯電話の番号を記入下さい。 ※今回、24時間テレビチャリティ委員会より昼食を用意させていただきます。 </small>								

対馬市役所のホームページより転載

http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/web/tsushimanews/post_542.html

図 3-4 海岸清掃活動の申込用紙の例

3.2 参加準備

当日までに海岸清掃活動への参加準備をしっかりと行いましょう。

3.2.1 服装と持ち物

服装と持ち物を確認しましょう。

季節や当日の天気、活動内容に適した服装を心がけましょう。図 3-5 や図 3-6 のような長袖、長ズボン、運動靴（長靴）、帽子、タオル、手袋（軍手）という服装が動きやすく、状況に応じて調整が可能なので、海岸清掃活動に適しています。暑い時期でも、半袖や半ズボンなどの服装は肌を露出させていることからケガをしやすくなるため、避けましょう。特に、ケガや転倒防止のため、足の肌が露出するサンダル類の着用はやめましょう。

また、活動中は汗をかくので、適度な水分補給が必要です。主催者から飲み物提供の案内がない場合は、各自で準備して参加しましょう（水筒を持参するのも良いでしょう）。

海岸清掃活動のための持ち物の例を表 3-3 に示します。これを参考に準備してください。

ただし、各自の持ち物は、現地での活動に最低限必要なものにしましょう。



図 3-5 海岸清掃活動に適した服装の例



図 3-6 海岸清掃活動時の服装の例

表 3-3 海岸清掃活動のための持ち物の例

	品 目	備 考
各自で準備したいもの	長袖・長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> ケガを避けるため、長袖・長ズボンが良い 作業時は汗をかくので、乾きやすい素材のものが良い
	雨具（カッパ）	<ul style="list-style-type: none"> カッパは風雨を通さないため、雨天時や寒い時期の清掃活動には、適している 傘の利用は片手が使えなくなるほか、傘が風にあおられて危険なため、カッパの着用が良い。
	靴	<ul style="list-style-type: none"> 運動靴や登山靴が適している 滑りにくい靴底のものが良い（下記のように長靴でも可） サンダル類は滑りやすく、ケガのリスクが高いため不可
	帽子	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症・日射病対策のために必ず着用する 海岸は風が強いため、飛ばされないように注意する
	タオル	<ul style="list-style-type: none"> 作業時に汗をふくために必要である ただし、チェーンソーなどの機械使用時は、巻き込み事故を防ぐため、首に掛けない
	飲み物	<ul style="list-style-type: none"> 主催者から提供の案内がない場合には各自十分に準備する マイ水筒の使用を推奨したい
	かばん	<ul style="list-style-type: none"> 貴重品などは個人で管理して身体から離さない 作業時に両手が自由に使えるリュックなどが適している 軽量のものが適している
	健康保険証	<ul style="list-style-type: none"> ケガなどの緊急時に必要となる場合がある
	手袋（軍手）	<ul style="list-style-type: none"> 主催者が配布する場合もあるが、各自が持参して、可能な限り再利用すると良い
	あると便利なもの	携帯電話など
飴・梅干など		<ul style="list-style-type: none"> 熱中症対策や活動時に疲れたときにリフレッシュできる 個別包装のごみは、不注意で落とすことがないように、注意して持ち帰る
サングラス		<ul style="list-style-type: none"> 活動の妨げにならないものを使用する
日焼けどめ		<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて各自で紫外線対策を行う
トング（ごみばさみ）		<ul style="list-style-type: none"> 基本的には手袋を着用した手でごみを拾うが、必要に応じて主催者が貸出す場合がある
割り箸		<ul style="list-style-type: none"> 廃油ボール回収時に使用するのに便利である
長靴 マリンプーツ		<ul style="list-style-type: none"> 水辺付近の活動時に適している 主催者から案内がある時は各自準備する

3.2.2 移動手段の検討

当日の移動方法を確認しましょう。

集合方法を主催者に確認しましょう。

当日は各自で集合場所に現地集合する 경우가ほとんどです。なるべく公共交通機関を利用して移動するようにしましょう。

自家用車を利用する場合は、集合場所付近の駐車スペースに限りがあるので、参加申し込み時に主催者に駐車場について確認しましょう。また、仲間と乗り合わせるなどの方法も考えましょう。

また、主催者が送迎バスを準備してくれる場合もあるので、募集要項で確認し、利用する場合は参加申し込み時に予約しましょう。

3.3 海岸清掃活動への参加

海岸清掃活動をやってみましょう。

3.3.1 漂着ごみの分別

漂着ごみの分別方法を確認しましょう。

漂着ごみの分別方法は、家庭ごみと異なる場合があります。地域のクリーンセンターで処理できるごみと、処理できないごみという具合に、最終的にごみをどう処分するかの視点から分別することになります。

この分別については、クリーンセンターの処理能力などによって地域ごとに異なる場合があります。主催者の説明を聞いて、漂着ごみの分別方法を確認しましょう。

表 3-4 は漂着ごみの分類・分別の例ですが、地域によって異なる場合がありますので、注意しましょう。また、有害なごみ（例：蛍光灯の管。水銀が含まれているため）や、危険なごみ（例：中身の判らないものが入っている容器など）もありますので、注意が必要です。

表 3-4 漂着ごみの分別区分の例（対馬市の例）

分別区分	内 訳
廃プラスチック類	カップ麺などの容器、シャンプーなどのボトル、ビニール袋やヒモ、ペットボトル・ふた、アナゴ漁業用漁具、プラスチック製ブイ、（空の）ポリタンク・ライターなど
発泡スチロール類	発泡スチロール製ブイ、トロ箱（魚を入れる箱）など
漁網・ロープ類	漁網、ロープなど
流木・材木類	流木、 ^{かんぼく} 灌木、材木、木片など
その他の可燃物	紙くず、衣類などの繊維製品など
不燃ごみ	【金属類】（空の）スプレー缶・カセット式ガスボンベなど 【ガラス類】空きびん、陶磁器、びん以外のガラス、蛍光管・電球（割れたもの）など
危険物、有害ごみ	蛍光管（割れていないもの）、バッテリー、中身の判らないものが入っている容器、注射器など
その他の処理困難物	家電製品、タイヤなど

3.3.2 作業上の留意点








危険なごみ、危険な生物、危険な場所に注意しましょう。

主催者側が下記のような資料を準備していない場合もありますので、事前に確認しておきましょう。

● 危険なごみ

海岸には危険なごみが漂着していることがあります。危険なものやよく判らないごみは触らずに、主催者に知らせましょう。危険なごみへの対応例を表 3-5 に整理しましたので、参考にしてください。また、下記のほか、材木からクギが飛び出していることもあり、回収作業時には不用意にゴミの上に乗ったり、よく見ないでゴミをつかんだりしないようにしましょう。

表 3-5 危険なごみの対応例

危険なごみ		対応（理由）
割れ物（ガラス・陶器など）		参加者が注意して集める ・素手でさわらない（ケガの危険性あり） ・素手でさわらない ・割らないで集める ・他のごみと混ぜない（破裂の危険性あり） ・他のごみと混ぜない（破裂や引火の危険性あり） ・他のごみと混ぜない（引火の危険性あり） ・素手でさわらず、割り箸などを使用して集める ・他のごみと混ぜない（引火の危険性あり）
割れ物 （蛍光灯・電球）		
スプレー缶		
ガスの残っているライター		
廃油ボール		
医療系廃棄物 （注射器・針、薬瓶など）	注射器 バイアル瓶 	主催者が対応する 【参加者は集めない】 ※発見者は、所在場所を主催者に知らせる（他のごみと混ぜて処理しない） ※動物の死体は原則として回収しない
爆発性のもの （信号弾・発炎筒・爆竹・高圧ガスなど）	消火器 船舶用発煙筒 ガスボンベ 	
中身のわからない液体などが入ったもの （ポリタンク・ドラム缶、ペットボトルなど）		
動物の死体（有毒・感染の恐れがあるもの。次項参照）		

● 危険な生物

波打ち際には有毒なクラゲが漂着していたり、海岸の植生帯付近にはマムシのほかムカデ・ハチのような有毒な動物や、ノイバラ・アザミ類のようなトゲで怪我をしやすい植物が生息・生育している可能性があります。前述のように、長袖・長ズボンを着用し、危険な動植物を見かけたら近づかない、触らないようにしましょう。また、むやみに植物が密生する植生帯の中に入らないようにしましょう。もし、危険な動植物を見かけたら、近くで活動している人に声を掛けて注意を促し、主催者にも知らせましょう。



カツオノエボシ(有毒。クラゲの一種)



ムカデの仲間 (有毒。海岸にも生息)



アシナガバチの仲間 (有毒。海岸付近でも営巣)



ニホンマムシ (有毒。特徴は頭が三角形)



ノイバラ(トゲが危険)



アザミの仲間(葉のトゲが危険)

図 3-7 危険な生物の例

注：「ムカデの仲間」・「ニホンマムシ」・・・危険生物 MANIAX_HP より引用
<http://mukade.etc64.com/>

● 危険な場所

水辺や岩場、波打ち際などは足元が不安定で滑りやすいので、不用意に近づかないようにしましょう。海岸清掃活動時は、安全に配慮し、単独行動をせずに複数人で行動を共にするようにしましょう（万が一怪我をしたり、事故があっても助け合えます）。

子どもが参加する場合は、常に大人と共に行動させるか、大人が目が届く範囲内で活動させ、危険な場所では慎重に行動するように注意し、場合によっては近づかせないように配慮しましょう。



図 3-8 海岸での危険な場所の例

3.3.3 楽しく安全に漂着ごみを拾うには

清掃手順、自然環境への留意事項などを確認して、楽しく、安全に活動しましょう。

海岸清掃活動を行う場合は、「楽しく、安全に」が大切です。そのためには、主催者が指示する安全な方法でごみを回収しましょう。

まずは怪我しないこと。そのためには、キチンとした服装で参加しましょう。

海岸清掃活動は、漂着ごみを拾うだけではなく、ごみを分類群ごとに分別して集め、指定された仮置き場まで運び、風で飛ばされないようにするまでが一連の作業となります。

海岸清掃活動の会場では、開会式の前後に配布されるゴミ袋を持って海岸に行き、主催者が指示する分別・回収方法で漂着ごみを拾いましょう。大きなごみばかりではなく、細かいごみも注意して拾いましょう。また、集めたごみは、他の参加者と協力して、指定された場所まで運び、主催者の指示する方法で仮置きしましょう。

【楽しく】

● ピカピカの海岸に

多くのごみが散乱していた海岸が、皆の力できれいになる様子は嬉しく、楽しいことです。清掃する前の海岸と、キレイになった海岸を比べて見てください

● お宝さがし

漂着ごみの中で、気になったごみがあれば、主催者にどんなことに使われている品物なのか、生産国はどこなのか、どのように流れてくるのかなどを聞き、興味を持って作業しましょう。

また、ビーチグラス*、椰子の実、珍しい貝殻や動物の骨、ガラス玉などのお宝探しも楽しいものです。これらを用いたごみアートの作成なども、楽しい海岸清掃活動につながります。

ぜひ、あなたのお宝を探してみてください。

注：【ビーチグラス】シー・グラスとも言います。割れたガラスの破片が波に揉まれ、岩などに当たって角が取れて丸くなったガラス片のことを言います。曇りガラスのような風合いがあり、キレイです。その色には、飲料の容器として利用される緑、透明、茶色などがあり、並べるだけでもキレイですが、ランプシェードなどのアート作品に仕上げる楽しみもあります。



図 3-9 “楽しい” 漂着ごみ

【参考】

海岸に落ちている漂着物を収集することを「ビーチ・コーミング」と言います。「コーム (comb)」は髪の毛をとくのに使う櫛 (くし) のことで、浜辺を手という櫛ですき取るようにして漂着物を拾う様子から、「ビーチ・コーミング」と名付けられたようです。

アート作品のような流木、キレイな貝殻、珊瑚(サンゴ)、丸い石、ウニの殻、海外から流れ着いた空き瓶のほか、上記のビーチグラスなどが、その対象となります。

拾った漂着物は、標本にしたり、加工したりして、楽しめます。

● イベントに参加する

海岸清掃活動の規模によっては、回収・搬出作業の終了後に、漂着ごみに関する勉強会や漂着ごみを用いた工作会、音楽のライブ活動などが開催される場合があります。

これらのイベントに参加することにより、参加者同士の一体感や作業の達成感を得ることもできますので、イベントがある場合は是非参加してみてください。

【安全に】

● 清掃手順を確認する

回収：どのように回収するか、主催者に確認してください。



・大まかに分別しながら回収する方法



・回収してから一斉に分別する方法

搬出：回収したごみを仮置き場まで運ぶ方法についても主催者に確認してください。

下記のうち、集めたごみを参加者全員でバケツリレー方式で搬出すると参加者の一体感も味わえ、かなり盛り上がります。



・各人で運ぶ



・ごみ袋をリレーで運ぶ



・大きなごみは複数名で運ぶ

● 休憩をとる

活動中は無理をしないで、休憩をしっかり取り、自分で体調管理をしましょう。特に、暑い季節、湿度が高い時は、熱中症にかかりやすい時期となります。水分と休憩を適切にとり、万が一頭痛がするなどの熱中症の症状が出始めたら、無理をせず、作業を中止し、涼しい場所で休憩するなどの対処をしてください。遠慮せずに、自分の体調と相談しながら、休憩を取りましょう。

また、体調が悪そうな人を見かけたら、積極的に声を掛け、周囲の人や主催者と協力して救護に当たしましょう。

● 緊急時に備える





人身災害・事件・事故・自然災害が発生した際には、直ちに主催者に知らせます。まずは、自らの安全を確保し、余裕があれば、主催者の指示に従い、救護などを手伝いましょう。

● 貴重な動植物や自然環境に配慮する

海岸は様々な動植物の生息地でもあります。海岸清掃活動時の侵入や踏みつけによって、動植物の生息地・生育地を破壊したり、景観を損ねることのないように配慮しましょう。特に、海岸近くの湿地には、表 3-6 に示すような絶滅危惧の植物種が生育していることが考えられますので、注意が必要です。

また、海岸には、漂着している植物や海藻などの自然物を餌や住処としている動物がいます。基本的に、自然物は拾わないようにしましょう。

表 3-6 貴重な植物の例

長崎県レッドリストの カテゴリー	植物の例
絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種	
	
	
絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種	

注：「五島・壱岐・対馬沿岸海岸保全基本計画～交流と漁火の「しま」～長崎県 平成 16 年 3 月」を基に作成、
カテゴリーのみ変更

・長崎県レッドリスト：改訂版長崎県レッドリスト 2011（維管束植物一部修正後）

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2013/07/1373430037.pdf>

・写真引用：対馬植物図鑑 <http://plant.kacchell-tsushima.net/>

日本の水生植物 http://waterplants.web.fc2.com/zufu_kawaturumo.html

三河の野草 <http://mikawanoyasou.org/>

3.4 海岸清掃結果を見る

海岸清掃結果を確認しましょう。

主催者から“海岸清掃活動終了”の合図があった場合は、忘れ物がないよう、身の回りのものを片づけて閉会式に参加し、当日の成果や主催者のコメントを確認しましょう。

また、漂着ごみを回収する前の海岸の状態と、回収した後の海岸を頭の中で比較し、きれいになった海岸を見て、達成感を味わいましょう。

これについては、後日、主催者のホームページなどで活動報告が掲載されるかどうかを確認しておくといいでしょう。また、回収前と回収後の写真を撮っておくと、後で比較できます。

さらに、主催者側のホームページなどで、どれくらいのごみを、どれくらいの人で集めたのかを写真やインターネット情報を見て確認することにより、参加した清掃活動の理解が深まります。

活動経験を活かして、以降も積極的に海岸清掃活動に参加しましょう。

また、家族や友人、勤務先の同僚などを誘って、次の海岸清掃活動に参加しましょう。皆で海岸をキレイにすれば、もっと楽しくなりますよ。

今の時代の子どもたちのために、また将来世代のために、皆の力を合わせましょう。



清掃前



清掃後

<清掃作業>



キレイになって、気持ちがいいね！また、参加しましょう！